

我が校の強み弱み分析・評価シート

○調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【結果について】

《概要》

国語Aでは、「話すこと・聞くこと」に関する設問での正答率が高かった反面、「書くこと」や「伝統的な言語文化等」に関する設問での正答率がやや低い結果となりました。国語Bでは、「文章の構成を捉える」設問での正答率が高くなっています。数学Aでは、「数と式」「関数」に関する設問での正答率が高く、数学Bでも「数と式」「関数」の正答率は高く、また、全体的に無問率も低くなっています。ただ、数学Bにおける「資料の活用」に課題がみられました。

《強み・弱み》

質問紙調査からも、生徒たちは「生活習慣」「規範意識」には高い意識を持ち、家庭での会話を大切にしたり、手伝いを積極的にしたりするなどの回答も多いことから、落ち着いた家庭・学校生活を送っている様子が見られました。ただ、国語への関心が低いこと、家庭学習の時間が十分でないこと、読書量の少なさが課題として見られました。

◇強み・弱みレーダーチャート◇

※本校の傾向を見るためのものであり、学校ごとに基準が異なるため、他校と比較できるものではありません。

【指導の充実に向けて】

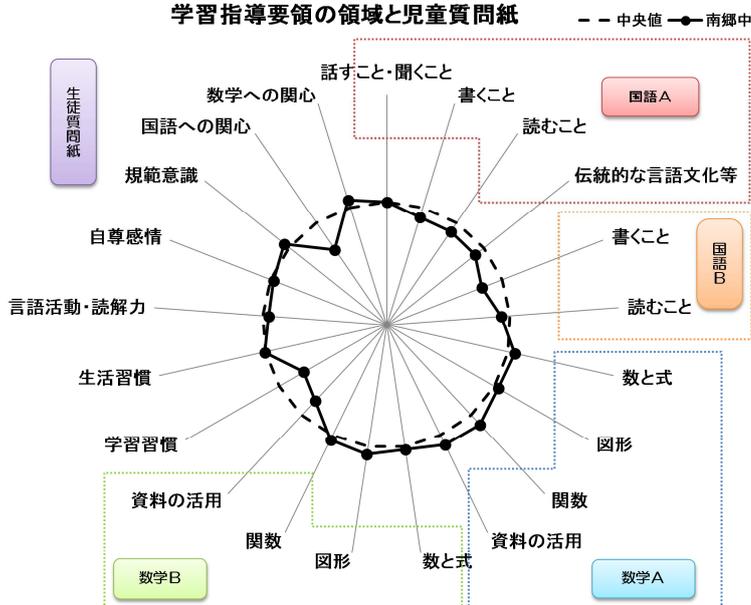
昨年度から自分の言葉で、考えを伝えたり、議論し互いに深め合ったりする「学び合い」を取り入れた授業改善に努めています。その中で、生徒同士が意見を交流する機会を設け、ものの見方や考え方を広げたり、深めたりする力の育成に取り組んでいます。

また、授業の中で丁寧に「読む」活動だけではなく、「書く」活動などを増やしながら、根拠を明確にして自分の意見を記述する機会も増やしています。

加えて、基礎学力の定着にも課題があるので、さらに小中連携を強化しながら、課題を明確にしたうえで、補充教室や質問教室などの機会を設け、基礎学力定着に向けた取り組みを進めています。

今後、家庭学習についても十分でないことから、今年度中に「家庭学習の手引き」を家庭での予習・復習の習慣化を目指した内容に改訂し、子ども・保護者に啓発・周知していきます。また、学校・学級図書の実態を回り、読書の習慣化を目指した取り組みを進めます。

学習指導要領の領域と児童質問紙



※グラフは全国平均正答率と本校平均正答率のポイント差に基づいて作成しました。破線はポイント差の中央値を表しています。破線より外側の場合は強み（成果が現れている項目）、内側の場合は弱み（改善を検討する項目）と捉えることができます。